

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	75人	算数	75人	理科	75人
第5学年	国語	87人	算数	87人	理科	87人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

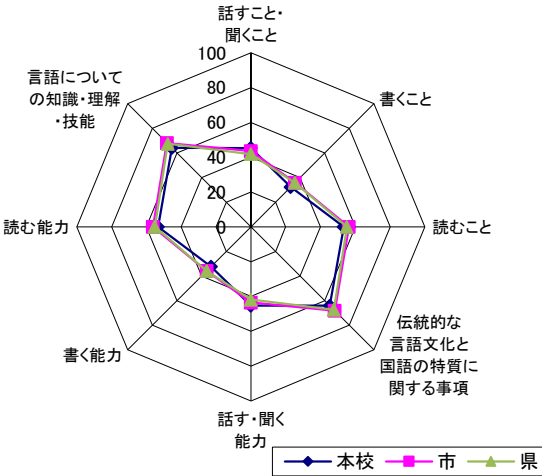
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	45.3	43.5	41.8
	書くこと	32.4	35.9	35.8
	読むこと	53.3	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.1	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	45.3	43.5	41.8
	書く能力	32.4	35.9	35.8
	読む能力	53.3	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	64.1	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

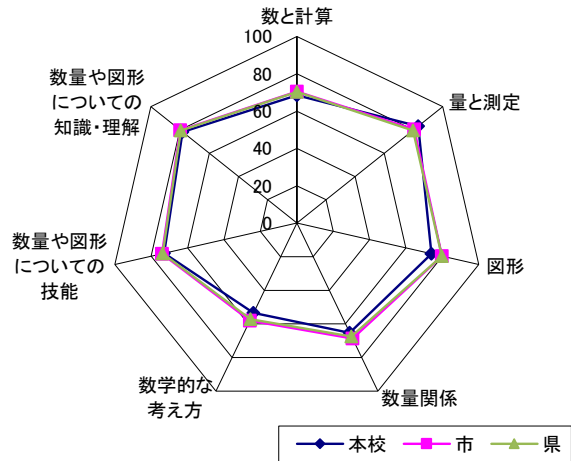
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均正答率をやや上回っている。 ○話し合いのときの司会者の進行の仕方について問う設問については、県の平均を上回っており、よく理解している。 ●話し合いにおける発言の仕方についての理解が低い傾向にある。	・話し合い活動を授業に意識的に取り入れ、自分の考えを発表する機会を多くし、適切な発言の仕方について学ばせていく。自分が伝えたいことを、どのような観点に気をつけて発言すればよいか確認しながら行う。
書くこと	県の平均正答率を3.4ポイント下回っている。 ●招待状の内容を自分で考える問題では、県の平均正答率を6.5ポイント下回っており、必要な要素を入れて自分の言葉で表現することが苦手な傾向にある。	・授業において自分の考えや感想を書かせる活動を多く取り入れる。 ・行事の招待状(目的意識・相手意識があるもの)など実用性のある書く活動を取り入れる。 ・週末日記や行事における作文など、書く訓練を日頃から行う。
読むこと	県の平均正答率を全体的に下回っている。 ●指示語が指す言葉を探したり、登場人物の人物像を考えたり、内容を簡潔に理解したりすることが特に苦手な傾向にある。	・パワーアップタイム(朝の学習)を活用し、基礎問題だけでなく、国語の読み取り問題にも定期的に取り組ませる。 ・読み取りの問題を時間内に解くためのスキルを身に付けるさせるために、時間を設定して、短い時間でできるプリントを用意したり、単元の復習としてプリント問題に取り組ませたりして、テストの環境に慣れさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	県の平均正答率を3.4ポイント下回っている。 ●特に国語辞典を使って意味を調べるときに、どのようなことばで探せばよいかという問題では、県の平均正答率を15ポイントと大きく下回っている。 ●文章中の会話文に「」をつける問題や反対の意味のことばを答える問題は、どちらも県の平均正答率を8ポイント近く下回っている。	・パワーアップタイムの時間を活用し、漢字の基礎的な問題に定期的に取り組ませる。 ・教科書に載っている「ことばの学習」を活用し、意味調べをしたり、短文を作ったりする機会を設ける。 ・辞書を引く機会を増やしたり宿題に取り入れれたりして、意味調べを行わせる。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.5	70.5	70.3
	量と測定	83.2	80.4	79.6
	図形	74.0	79.8	79.7
	数量関係	65.3	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	53.5	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	72.9	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	78.3	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

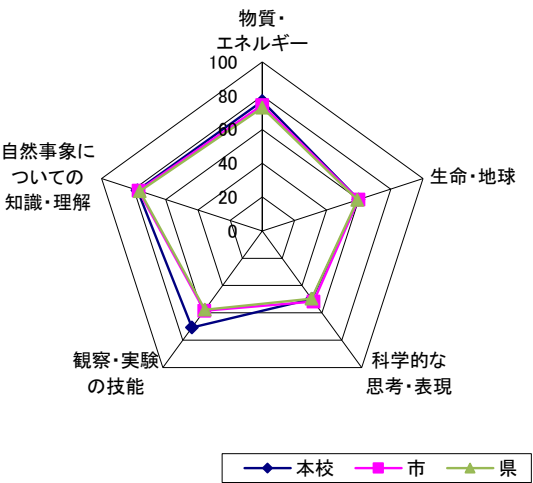
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の正答率よりやや低い。 ○整数を数と計算の領域の中では、「整数－小数＝小数」の計算や整数を単位分数のいくつ分かで表すことなどがよくできている。整数と小数、分数のそれぞれの関係についての理解ができていていると思われる。 ●3位数+3位数＝4位数(繰り上がりあり)の計算や「数直線の目盛りを読み取り、分数で表すこと」について課題が見られる。	・今後も朝の自習の時間を活用し、基礎的な計算練習を繰り返し行い、計算の力を身に付けさせていく。 ・整数と分数の関係においては、図や数直線を用いて示す活動を取り入れ、理解が深まるようにする。 ・記述式の問題に抵抗があるので、普段から、自分の考えをノートに書かせる指導を取り入れるなどして、考えを文章にまとめることに慣れさせていきたい。
量と測定	平均正答率は、県の正答率よりも3.6ポイント高く、また、他の領域と比べても高くなっている。 ○およそ1kgのものを選ぶことやある時刻から一定時間前の時刻を求めることについて、正答率が高く、理解ができていていると思われる。 ●はかりに示された重さを読み取ることについては、県の平均正答率より低く課題が見られる。	・実生活の中の重さの感覚や時刻の読み取りへの意識は高いと思われるので、日常から算数的な活動を意識して生活させる。 ・はかりの目盛りの読み取りについては、理科の時間なども活用して、なるべくたくさん体験できるようにさせたい。
図形	平均正答率は、県の正答率より5.7ポイント低く、県の正答率と一番差がある領域である。 ○円の直径を表す線分については理解ができている。 ●正三角形の作図や図形の活用的な設問の正答率が県の平均正答率より、8ポイント以上低く課題が見られる。	・図形の問題について、応用的な問題に慣れさせたり、図示で理解を促したりしたい。また、授業中にも友達と考えを伝え合う時間を確保し、応用的な問題をいろいろな視点で考えさせ、理解を深めさせたい。
数量関係	平均正答率は、県の正答率よりも2.2ポイント低く、他の領域に比べ、正答率が65.3%と一番低くなっている。 ●ほとんどの設問において、県の平均正答率より低くなっており、特に□を用いた乗法の式の設問や、余りのある除法についての記述式の問題の正答率が低く、課題が見られる。	・文章問題を読み取り、□を用いた問題の立式を行わせ、そのパターンを示すようにして理解を深めたり、似たような系統の問題を解かせたりするようにする。 ・記述式の問題については、教師が必ず模範解答を黒板に書くようにし、理解の低い子にはキーワードを押さえて写させるようにする。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	76.8	74.5	72.9
	生命・地球	59.9	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	49.8	51.6	49.7
	観察・実験の技能	70.7	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	77.7	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、「生命・地球」の領域より高い。また、県の正答率よりも、3.9ポイント高い。 ○物は形が変わっても重さが変わらないことやはかりの正しい操作手順、回路をつくる際の導線のつなぎ方など、実際に実験を行い体験したことについての理解が高い。特に、「電気の性質」についての正答率が高く、学習内容が定着している。 ●実験結果から推測してゴムの伸びを考える設問やあるものを磁石につけると磁石になるという性質と図を結びつけて考える設問の正答率が低く、実験結果から考察し、応用して考えることについて課題が見られる。	・これからも、個人やグループごとの実験の時間をきちんと確保し、教師の演示だけで終わらせることがないようにし、理科実験への興味を深め、基礎問題の理解へと結びつけていきたい。 ・実験や考察を行う際に、ペア学習で話し合いをたくさん行わせ、十分に考える時間を確保させる。 ・実験結果からよりよい考察へつなげ、活用する力を高めるために、ノートに、実験から考察までの流れや問題解決の方法、共通して使う理科用語をきちんと書かせるようにする。その際、友達の考えのよさも書けるようにする。
生命・地球	平均正答率は、県の正答率とほぼ同じである。 ○虫眼鏡や方位磁針の適切な使い方、温度計の正しい目盛りの読み取り方などの設問の正答率が高く、実際に使った用具の操作方法が身に付いていることが分かる。 ●昆虫の体のつくりや昆虫が卵をうむ場所と食べ物とを関連づけて考察することについて課題が見られる。 ●理由を説明したり、考察したことについて記述したりする設問の正答率が低く、課題が見られる。	・理科室において、実験用具を自分で用意させ、名前を覚えさせる工夫をするなど、使う用具への意識を高め、使い方についても、これからも丁寧に指導していく。 ・昆虫の体のつくりについては、実物を観察しながら、観察プリントに書かせ特徴を押さえるようにする。卵をうむ場所との関連についても、実物の観察や図鑑を用いて考えることなどを通して理解を深める。 ・記述問題については、「物質・エネルギー」の領域の手立てと同じように、ノート指導をきちんと行い、自分の考えをその都度必ず書くようにさせる。

宇都宮市立陽南小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定的回答の児童の割合が77.3%で、県平均(59.2%)よりも18.1ポイントも高い。各自の努力に対する賞賛を工夫していることの成果が表れている。今後もこの取組を継続していきたい。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」の肯定的回答の児童の割合が96.0パーセントで県平均(89.5%)より6.5ポイント、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」と回答した児童の割合が89.0%で県平均(82.1%)より、6.9ポイント高い。今後も、授業や行事での成功体験を大切にしながら、それらを組織貢献・社会貢献に結び付ける指導・援助を行っていきたい。

○「次の教科などの勉強は好きですか。」という問いに対し、「国語」では、7.8ポイント、「社会」が10.9ポイント、県平均より上回っている一方、「算数」では、7.6ポイント下回っている。算数では、少人数指導や習熟度指導を行い、基礎基本の習得に力を注いでいきたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である。」の肯定的回答の児童の割合(81.3%)が県平均より5.2ポイント高い。今後も、聞き方のマナーアップ等を重ね、更なるクラス内の良い雰囲気作りを目指したい。

●「早寝・早起きを心がけている」(70.7%)や「食事のとき、好き嫌いをしないで食べている」(69.3%)の肯定的回答が、それぞれ県平均より9.3ポイント、6.1ポイント低い。家庭訪問、個人懇談、各種便りを通して、家庭と学校の更なる連携を図りたい。

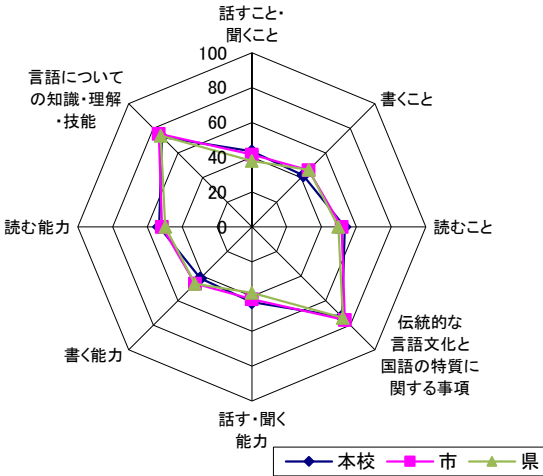
●「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」の肯定的回答の児童の割合(62.7%)が、県平均より8.0ポイント低い。今後は、話し方・伝え方のスキルアップを図れるように、一人一人の発表機会の確保に努めたり、ペア学習などを通し、自分の考えを持った上で、友達と意見を交流し、話合いの内容を深めていく工夫を行ったりしたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」の肯定的回答の児童の割合は、それぞれ69.3%、59.5%で県平均より、9.0ポイント、11.0ポイント低い。時事ニュースなどを分かりやすく伝える機会を増やしたり、学習内容を社会事象に結び付ける工夫を重ねたりしたい。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	43.3	41.6	37.9
	書くこと	41.8	46.1	46.3
	読むこと	53.3	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.1	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	43.3	41.6	37.9
	書く能力	41.8	46.1	46.3
	読む能力	53.3	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	73.1	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

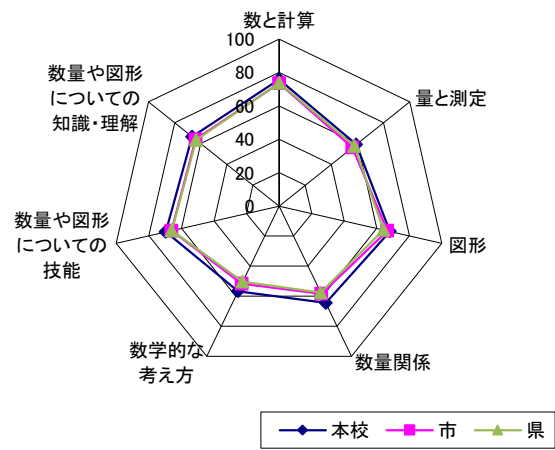
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均正答率を1.7ポイント、県の平均正答率を5.4ポイント上回っている。 ○特に、提案者の役割を答える問題の正答率は、市の平均正答率を5.0ポイント、県の平均正答率を10.5ポイント上回っている。	・提案者や司会者の役割は分かっているようなので、今後は話合いの中で、相手の意見と自分の意見の相違について、客観的に考えながら中身のある話合いができるようにしていきたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均正答率より、4.3ポイント、県より、4.5ポイント下回っている。 ○資料と話合いを基に、学級新聞に付け足す文を記述する問題の正答率は、市の平均正答率を1.6ポイント、県の平均正答率を1.3ポイント上回っている。 ●目的に応じた資料の見せ方の工夫を答える問題では、市の平均正答率を11.6ポイント、県の平均正答率を11.5ポイント下回っている。	・社会や理科など他教科で新聞づくりを行う。その際、より効果的な新聞の書き方を示し、条件をつけて書かせるようにする。 ・互いにアドバイスをしたり、友達の書き方の良さを自分の文章に生かしたりできるように、ペアやグループ学習を取り入れる。 ・キーワードを与えて書かせる活動を取り入れる。よい文章をまねて書かせたりする。 ・一行日記、週末日記、行事作文、授業の振り返り感想を書かせるなどして、文章を書く機会を増やす。
読むこと	平均正答率は市の平均正答率を1.7ポイント、県の平均正答率を3.6ポイント上回っている。 ○目的に応じて文章を要約する問題の正答率は、市の平均正答率を5.7ポイント、県の平均正答率を8.2ポイント上回っている。 ●中心となる語を捉えて読む問題では、市の平均正答率を2.5ポイント、県の平均正答率を0.6ポイント下回っている。	・朝の読書の時間などに読書に親しんでいる効果が表れていると思われる。継続して読書活動を盛んにしていきたい。 ・今後の説明文の学習で、接続語に着目したり、中心となる語や文を捉えたり、段落相互の関係を捉えたりする読み取り方を指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市の平均正答率を2.5ポイント、県の平均正答率を0.9ポイント下回っている。 ○ことわざの使い方を答える問題の正答率は、市の平均正答率を2.4ポイント、県の平均正答率を11.4ポイント上回っている。 ●一部の漢字の読み書きや、漢字辞典の使い方を答える問題で、市や県の平均正答率を下回っている。	・パワーアップタイムの時間を活用し、漢字の読み問題に定期的に取り組ませる。 ・フラッシュカードを取り入れたり、漢字スキル以外の練習を取り入れたりして、いろいろな漢字の使い方に慣れさせる。 ・ワークテスト等で間違いが多かった漢字練習に取り組ませる。 ・授業の中で漢字辞典を使う機会を増やしていく。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.9	73.6	73.7
	量と測定	59.1	56.2	57.7
	図形	68.1	66.5	64.2
	数量関係	64.4	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	56.7	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	69.7	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	66.6	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

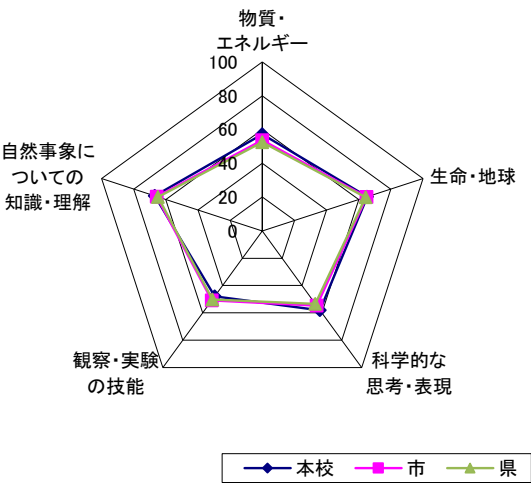
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は75.9%で他の領域と比べて高い。 ○3位数÷2位数＝2位数の計算や、小数(小数第1位)÷2位数の計算は宇都宮市の平均正答率をいずれも10ポイント以上も上回っており、よく身に付いている。 ●3位数×2位数＝4位数の計算の平均正答率は65.5%で宇都宮市の平均を5.0ポイント下回っており、課題が見られる。	・習熟度別学習の効果がみられるので、引き続き指導を充実させていく。 ・パワーアップタイムを通して繰り返し問題に取り組ませ、計算力を伸ばしていく。 ・特にかけ算を中心に繰り返し問題に取り組ませ、中位層から下位層の基礎的な学力を引き上げていく。
量と測定	平均正答率は59.1%でほかの領域と比べて低いが、宇都宮市の平均正答率を2.9ポイント上回っている。 ○1㎡の正方形の面積をcm ² の単位で表す問題については宇都宮市の平均正答率を19.4ポイントも上回っている。 ●正方形のタイルの面積を求める問題や、教室にある黒板のおよその面積を推測する問題はいずれも宇都宮市の平均正答率を下回っており、算数の知識と実際の生活の中のものが結びついていない傾向が見られる。	・習熟度別学習の効果がみられるので、引き続き指導を充実させていく。 ・実際の生活に結び付けられるような指導を心がけ、さらに理解を深めていく。
図形	平均正答率は68.1%で宇都宮市の平均正答率を1.6ポイント県の高正答率を3.9ポイント上回っている。 ○与えられた2つの辺の続きをかくて、ひし形を完成する問題の平均正答率は83.9%と高く、宇都宮市の平均正答率を13.8ポイント上回っている。 ●ひし形を対角線で分けた図形が二等辺三角形になる理由を記述する問題については平均正答率が33.3%と低く、無回答率も17.2%と高い。	・習熟度別学習の効果がみられるので、引き続き指導を充実させていく。 ・特に上位層の児童は記述式の問題にどんどん取り組み、力を伸ばしていく。 ・友達と伝え合う時間を多く確保し、問題に対して様々な視点で考えさせ、理解を深めさせたい。
数量関係	平均正答率は64.4%で宇都宮市の平均正答率を6.0ポイント、県の高正答率を6.9ポイント上回っている。 ○わり算の場面を表したテープ図の問題では、いずれも宇都宮市の平均正答率を10ポイント以上も上回っており、図から数量関係を捉えたり、式に表したりする力が十分に身に付いている。	・習熟度別学習の効果がみられるので、引き続き指導を充実させていく。 ・記述式の問題については、下位層の児童に対して教師が模範解答を示すことで、キーワードを押さえて写させるようにし、理解を促していく。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	57.2	53.7	52.5
	生命・地球	65.3	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	58.1	54.7	53.4
	観察・実験の技能	47.9	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	66.9	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均正答率を3.5ポイント、県の平均正答率を4.7ポイント上回っている。 ○「金属、水、空気と温度」の正答率は、市の平均正答率を4.4ポイント、県の平均正答率を5.5ポイント上回っていて、特に、水から氷になるときの体積の変化や温度の変化を答える問題の正答率は、市の平均正答率をそれぞれ14.9、11.6ポイント、県の平均正答率をそれぞれ16.9、12.2ポイントと、大きく上回っている。しっかり実験をして、その結果から分かることを考えてきた成果が表れたと思われる。 ●金属は熱した部分から順に温まることを答える問題では、市の平均正答率を6.6ポイント、県の平均正答率を5.0ポイント下回っている。また、電池の数やつなぎ方とモーターのまわり方を関係づけて答える問題でも、市の平均正答率を5.0ポイント、県の平均正答率を2.7ポイント下回っている。	・今後も科学的な思考力や表現力を高めるために、思考する時間を確保するようにしていく。その際、ノートやワークシートに自分の言葉で考えを書くように指導する。 ・学習課題に対して、予想→観察・実験→結果→考察→新たな課題というサイクルになるように指導していく。 ・結果を比較したり関連付けたりしながら思考するように指導する。
生命・地球	平均正答率は市の平均正答率を0.4ポイント、県の平均正答率を1.0ポイントと、やや上回っている。 ○「人の体のつくりと運動」の正答率は、市の平均正答率を7.6ポイント、県の平均正答率を7.8ポイント上回っていて、特に、人の背中や手が丸く曲げられる理由を説明する問題の正答率は、市の平均正答率を26.8ポイント、県の平均正答率を26.9ポイントと、大きく上回っている。 ●「月と星」の正答率は、市の平均正答率を4.6ポイント、県の平均正答率を4.1ポイント下回っている。 星座早見の使い方を答える問題では、市の平均正答率を13.6ポイント、県の平均正答率を12.5ポイント、月の形の変化の仕方を答える問題では、市の平均正答率を12.7ポイント、県の平均正答率を10.7ポイントと、どちらも大きく下回っている。	・できるだけ実物を使うが、「月と星」のようにそれができないときには写真、映像などの視覚資料を活用しながら学習を進めていく。また、実物を使えない分、興味関心を持続できるように、体験的な実験を取り入れる。 ・ワークシート等で月の形を順番にかかせるなど作業を取り入れる。 ・学習の途中や終末に、まとめる活動の時間を取ったり、復習の問題に取り組ませたりして、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立陽南小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強して『不思議だな』『なぜだろう』と覚えることがある。」という設問に対しての肯定的回答の割合が93.1%と、県平均(84.8%)より8.3ポイント高い。学んでいる内容に対して疑問を持ちながら学習していることが伺える。今後も児童が疑問を持ちながら学習していくための指導をしていきたい。

○「難しい問題にであうとやる気が出る。」という設問に対しての肯定的回答の割合が66.7%と、県平均(58.1%)より8.6ポイント高い。難しい問題にも意欲を持って取り組んでいることが伺える。今後も児童が難しい問題に意欲的に取り組めるように指導していきたい。

○「授業では自分の考えを発表する機会が与えられている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が87.4%と、県平均(80.0%)より7.4ポイント高い。授業では自分の考えを発表する機会が与えられ、積極的に意見を発表する児童が多いことが伺える。今後も児童が意見を発表する機会を多く与えていきたい。

●「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が79.3%と、県平均(89.8%)より10.5ポイント低い。授業の際は、めあてを必ず示し、児童が授業の見通しを持てるように指導していきたい。

●「授業の最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が56.3%と、県平均(70.2%)より13.9ポイント低い。授業の際は、振り返りを必ず行い、児童が授業で学んだことの振り返りを意識できるように指導していきたい。

●「学校でのきまりを守っている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が85.1%と、県平均(92.0%)より6.9ポイント低い。また、「家でのきまりや約束を守っている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が81.6%と、県平均(88.3%)より6.7ポイント低い。規範意識が低いことが伺える。「陽南学習・きまり」の振り返りを活用したり、できいる児童をほめたりすることを通して、規範意識を向上させていきたい。

●「家で自分の計画を立てて勉強している。」という設問に対しての肯定的回答の割合が60.9%と、県平均(69.0%)より8.1ポイント低い。また、「家で、学校の復習をしている。」という設問に対しての肯定的回答の割合が47.1%と、県平均(63.5%)より22.1ポイント低い。家庭学習のやり方を具体的に指示し、計画表を作成させるなどをして、児童が家庭学習に取り組めるように指導していきたい。